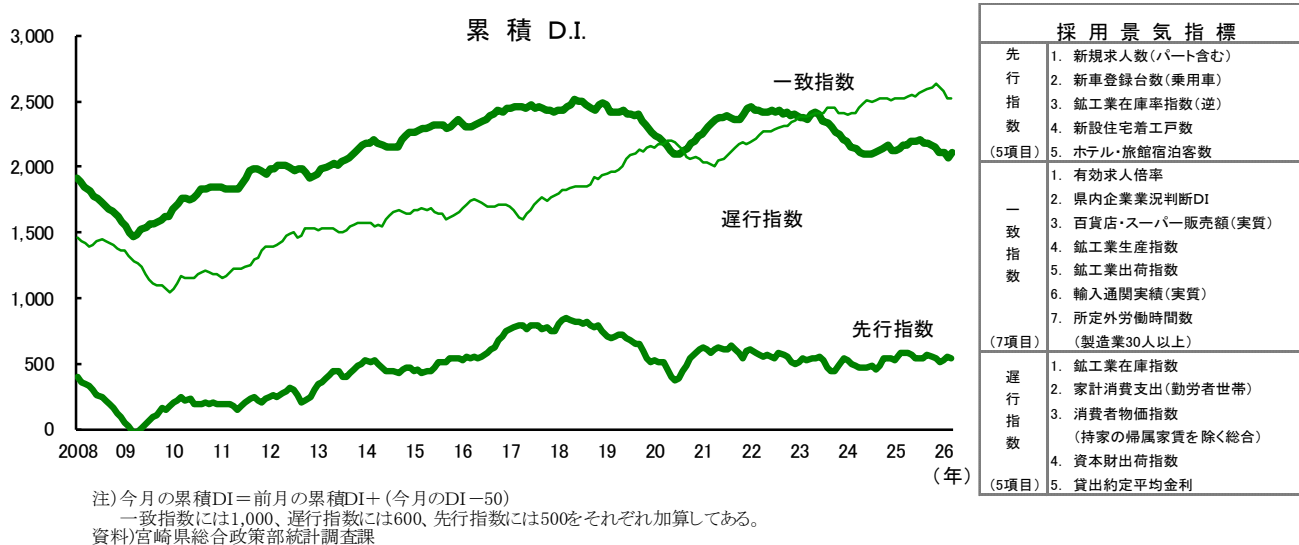


1. 景気動向指数

2026年3月の景気動向一致指数は、県内企業業況判断DI、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関実績（実質）、百貨店・スーパー販売額（実質）、所定外労働時間数（製造業30人以上）の6項目がプラスとなり、全体で85.7%と8カ月ぶりに50.0%を上回った（7項目のうちプラス6）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、新設住宅着工戸数の3項目がマイナスとなり、全体では40.0%と3カ月ぶりに50.0%を下回った（5項目のうちマイナス3）。

遅行指数は、資本財出荷指数、貸出約定平均金利がの2項目がプラスとなる一方、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、家計消費支出（勤労者世帯）の2項目がマイナスとなり、全体で3カ月連続で50.0%を下回った後、保合となった（5項目のうちプラス2、マイナス2、保合1）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指数が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数=(プラス項目数+横ばい項目数×0.5)÷(プラス項目数+横ばい項目数+マイナス項目数)×100(%)

2. 鉱工業生産

3月の鉱工業生産指数は、103.2で前年同月比4.9%減と前年を下回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（同22.7%減）、化学（同6.1%減）、繊維（同5.4%減）、食料品（同2.1%減）が前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

5月の公共工事請負金額は、114億48百万円で前年同月比7.6%減と5カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同71.6%減、県が同7.7%増、市町村が同8.1%増、その他（独立行政法人等）が30,240.0%増となった。

② 着工建築物

4月の着工建築物は、棟数は302棟で前年同月比41.1%増、床面積は5万161㎡で同33.9%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同30.3%増、床面積が同33.9%増となり、非居住用は棟数が同94.4%増、床面積が同15.4%減となった。

③ 住宅着工

4月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を大幅に上回った。県内合計は365戸で前年同月比44.8%増と7カ月ぶりに前年を上回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

4月の百貨店・スーパー販売額は、56億2,100万円で前年同月比1.8%減となった。

商品別では、衣料品は7億9,500万円で同4.3%減、飲食料品は31億6,200万円で同1.4%減、その他計は16億6,500万円で同1.4%減となった。

② 乗用車新車販売動向

3月の乗用車新車登録台数は、1,932台で前年同月比11.7%減となった。

車種別にみると、普通車は1,261台で同17.5%減、小型車は671台で同1.8%増となった。

5. 消費者物価指数

4月の宮崎市の消費者物価指数は、113.3で前年同月比1.0%増だった。

6. 企業倒産

5月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は4件（前年同月5件）で前年を下回った。負債総額は10億2,100万円（同5億9,400万円）で6カ月ぶりに前年を上回った。

7. 雇用情勢

4月の有効求人倍率は、前月より0.04ポイント上昇し1.18倍となった。

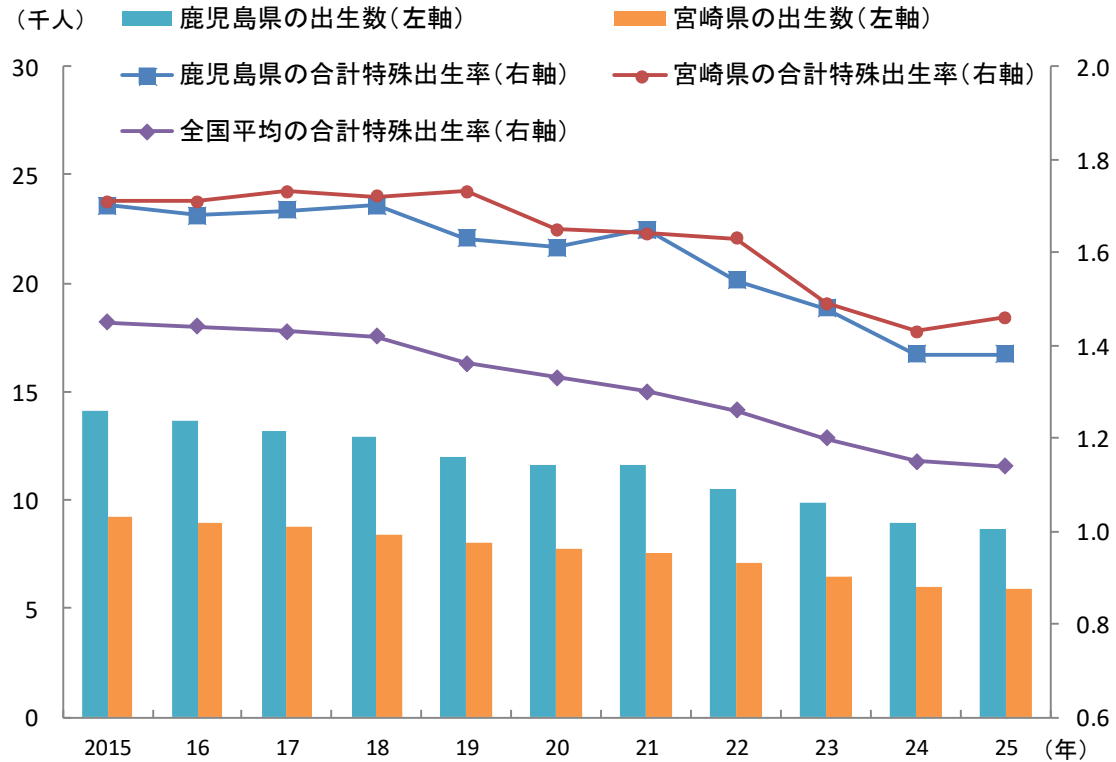
新規求人数は8,421人で前年同月比1.1%増となった。

雇用保険受給者数は、4,544人で同17.1%増となった。

〈今月のトピックス〉～合計特殊出生率と出生数

厚生労働省によると、2025 年の宮崎県の合計特殊出生率は 1.46 で前年を 0.03 ポイント上回った。全国平均（1.14）を 0.32 ポイント上回り、都道府県別では沖縄県（1.52）に次いで全国で 2 番目に高かった。また、出生数は 5,923 人で、前年比 77 人減少した。なお全国の出生数は 67 万 1,236 人で、前年比 1 万 4,937 人減少し、1899 年の統計開始以降最も少なかった。

合計特殊出生率と出生数



資料)厚生労働省「人口動態調査」(24年は概数)